

エルサレムポスト紙(8月17日)は、「イスラエルの厚労省大臣が法律による強制的な水道水フッ素化だけでなく、任意のフッ素化もすべて禁止した」と報じている。

イスラエルでは、法律によりフッ素化の許可が1974年に導入され、1998年には法律により強制された((世界中ではアイルランドとイスラエルだけ、逆に法律でフッ素化を禁止しているのは、オランダ、スウェーデン、チェコスロバキア))。

8月26日に発効となる新法は、イスラエル住民530万人のフッ素化を終了させる。この決定は世界中に広がりつつあるフッ素化中止の動きに弾みをつけるであろう。新しく結成されたフッ素化中止世界連合は100を超える団体が参加し、フッ素化禁止保護者会は2000人以上のメンバーが賛同している。

2010年以後、世界中では150以上の地域がフッ素化を拒否している。報道によると、ゲルマン厚労大臣は、「科学的根拠によると、フッ素は健康を害し、効果がなく、無駄使い、そして子供が摂取するフッ素の量を制限する自由を侵害する」と述べている。

ゲルマン女史が最初にフッ素化を中止する声明を発表をした時、猛烈な個人攻撃がフッ素推進派によってなされた。これは反って、世界中からフッ素化に反対する支援を受けることになった。FANは6月25日に100人以上の専門家による大臣を支持する公開文書を送り、またフッ素化推進派に対する公開討論を申し込んだ。しかしイスラエルでは誰ひとりとしてこれに応じていない。

8月15日にカナダトロント大学予防歯科のハーディ ラインバック名誉教授はゲルマン厚労大臣に以下の書簡を送った。

「私はこの件をあらゆる分野から検討し、以下の結論に達せざるを得ない。フッ素化都市はフッ素化の費用を節約でき、保護者は高価な歯フッ素症の治療代を節約でき、虫歯はそのまま減少しさえし続ける(多くのフッ素化中止後の研究が示すように)。そしてフッ素化中止後の住民は、飲料水への産業廃棄物の添加がなくなり健康が改善される(馬鹿げたことに、飲料水フッ素化に使われるフッ素は純度の高い薬品レベルではなく、ヒ素などの重金属、放射性物質を含む発癌性を増加させる産業廃棄物であることに気がついたので)。